春興句集

梅人、梅丸共作

好古艸堂俳書目錄
昭和二年十一月三日
第一一三號

# 絵作り方

試葉

たもとうと岩のそる
新たまかり白う縁りしろ

えりや雪こる
さえて松の風　梅人

第一圖

墨堤

行年吐
哉と秋
よ夜や板木彫

一名
宗拱

青陽

弘敷館
祇孝子

雪少き枠の白ふ一約瓶

梅人

祝宴七ゝ藩乃今朔雪雰

湖月

彩色八屠蘇の紅葉と笑れて

春興

ちり〳〵や夜ハもすがら西楊　祇孝子

守歳

餅屋の子鶏鳴の雪の暮　仝

雑日

短長林　国字子

遠日〳〵餅の男しらゝ海

一面の雪ゝ和田の年波　梅人

歳暮汐雲の移ひぬりし　鳥林

歳末

投入の梅を

[illegible]や年の暮

国字子

春の真

太乙館

不鬱子

此恩の[illegible]

雪ま[illegible]

[illegible]に[illegible]

梅人

寸路

[illegible]

[illegible]

不騫子

歳貳回

能敬菴

[illegible]

亀友子

[illegible]

梅人

[illegible]

長民

まさ興

紅梅の色は深めて服る　亀友子

歳暮

門松の色せて大荒り　仝

聖節

雪月樓

花多乃宮子深出を初るる　花人子

筆誠ゝ四季の西語　梅人

徳風を仰ぎ東風を待て　徳旋

春興

海苔つくるみハ行く春の風　花人子

歳暮

門〳〵ハ年ハ忙しく年の暮　仝

鶏冠

門前の琴弾く松の朝の春　自在館　不旋子

青鞜の翠の清しの初春風　梅人

春風に初年紀るゝて　蒼谷

春興

鶯の声ハ思ふ〻しもの宮　不起子

年尾

神垣や雪ふる中をとゝ[illegible]　仝

青陽

雪なる中の代の宮や境内　八巾

載くも恵乃かゝ者　梅人

見遠る彩を鳥帽子にぞきて　百川

元旦

日の影や不二も雪より三つの胡　紀裙

雪の山河ぞ実後河町　人

鳥遠ゝ[illegible]の声ゝ[illegible]て　梅弟

歳暮　　下総植房連

姉と箸や此角をもはしきひ始　境 如蘭

掛ヶれ世ぬ有此飛とや仏名會　、

咲ていかゝへて梅乃巳方絛　神崎 研石

餅をむを焼せて暖し年の宿　、

まとくへの師をみやしりても　木浦 令水

肩々へてたかまゝ雪乃果ふ休憩　、

甚兵乃息や遠ふ子氏花衣始　今 如亂

先一把出来てしおさよ年本煙　、

君か代の松かさけるや宮頼ま　仝 而宥

雪語し弟のちくゝ白くて拂　、

風情をむ神色京袍のもし宮　仝 柳水

行三や夜の皆よもし足乃話　、

二宮とも胡と決つん納ゝとて　稲荷山 指月

前途の宝殊あやくくもりけ　、

豊凡乃ちよ錦蔵や居ちらし　仝 起友

かえ足人足て皐伸ものの年礼市　、

少時々年ゝや年く姪へ了歎と源　源田 五常

五六ほんの畫ゝや年の梅　今　古廓
改ゝちやかまゝ豊ふ行方月
ゆゝゝきゝやつる端ゝ色ゝ除夜の鐘
境餅あつく新をうりしゝ　今　河梁
老ゝれよ東西眼も御　大三十日
祇園のちやうやきし門の雲　高岡　爲門
孰覃て越てちゝの影や油如
嵐ゝゝ夜の名畫よせん乞ゝきゝ　今　一和
白ゝゝの屋ゝゝ年や候の名



掛絹や清遠のゝきの山静　大和田　和素
年の尾丸かゝゝ明けゝゝ
世代なれや雑煮の色ゝ　今　東市
牛方の鈴ふちゝや海の
ゆゝゝきゝ弘ゝのもや宿の雲　南城　馬鬣
御年よりやほよ写貴ハ拾ゝ
菓子の吸魂ゝゝ奥ゝゝ　今盲人　五明
挑灯の折目ゝゝや年の仮
松竹乃栖とゝゝ高方ゝ　今　川舎

春秋行吉のゆくさよ帳仕也　全　粧鶴
初雪やぬくうて降や鉢の梅　全　紫英
散られて背よりかゝるや念仏　全女　紫英
うかゝるや蛍や胡や初りの虫　古山　一葉
味噌百て嗅ハゝうさ年の雪　植房　如甲
文字うちむ眼の老ちるや暦　植房　如甲
主物の杉や門ゝ乃垣　植房　如甲
海老と西ゆゝ俗ゝの松師　植房　如甲
燈ゝ神集や札納　植房　如甲

紫の雪や今朝屋藤の帯と改り　全　浦人
眠さうな人の身ちも所ちぶ
初空のゝしもちゝ入ちゝ　全　如雪
尼寄しゝ嗅ゝ織のかゝぶ
初夏や杉角休む二日の夜　高村　五中
又春と呼ゝ板ゝ卯の素ぶ
散のゝ山や幾度の度盛　武田　何幸
狐子西と吉の埋やゝ志
押新や七度眞の寄ひゝ　伊能　中葉

候搗や五人男のちり〳〵病

○

反歌　玄来編

手束雄なる八重垣出雲の州へ天照皇の嫁の
仮扱名いつゝき袖しを芸は落しのといつる紐
のさゝよさしらして石亟て毋は押さし三度
詠て退くちをうま就は兄伯父の影しめ共
文は鬼〳〵も仏舎利と盗し科は天竺唐人の
名ゆゝとうら戸　俳三昧の芸師はをくれ

五のうゝ俳諧の信迷の業こそ作〳〵は松を
枝〳〵も称んこの歌中にたくゝ世を行年のかゆ公
情むはくりゝ例の三ふたひ玉て芸を
無界思の業は一句の玉とあつき男方の
豪傑は肩に比ぶをわゝ徒の老婆は費
さゝとよやハとゆ言ゆみ愛ゆは忘し踏川
てゝゝゝし功ゝ船なさにゝびゝ英名ハ不弾
の器〳〵我ハおもゆ免れど出て給花盛業を
恢ふしやゝ人のたくゝ世を黙さして

思ひんさに小井一園を愛で文墨三顧の人と
称きるをきこと予清むて伏翁先生乃ち
終ハいと沢潤りて茯苓保沢の利ひもかく
年毒毒のもしまふまもかく稲付世ま見るの
さ人生ひ行りしいさや詩のまれみ古老
英武の来る屋より到ることは日東廣をゞ
ホ古と羽扇綸巾を扱ハ毒ま古見
詩杖夜ま四海のかしぬけ俳士保然と
して園中ま入ら

梅咲やけ下ゝけの初景色　今植房　既醉

吸ひてぬるむもれ沖　梅人

風ふも　さゝぬ蕾春景さ　鳥林

年月急
ぬゝぬ沖の
和布刈る　既醉

元日や日の出八花のごとくなり　松人
賣ゑさへ買ひて戻るや年の市　〃
年玉や先逆鉾の筆ちらし　臭拙
煤ちらしや〳〵はは高の袴ちらし　〃
上下就美帽よ着たるや初春　可矣
雪の菓子五の字やちらしの書　〃
俳重菓し袴の結て吹雪ゐる　帰方
年中就なり日就て暮ぶ　〃

一陽とたゞく揚ゝる井ぶ　蜘同
年の和やゝ雪も濃の美濃紙　〃
かの〳〵とあゝ面白や昨の春　五所
梅柳拾て恵ゝや年の実　〃
年就のこゝちなるや和鳥　二不
世の市八仲の産業や年の市　〃
給もゝ組々敷よ拾へもの春　白好
年賀も雪を荷れ年行ぶ　〃
歳末は都て深て着たゝ免　不染

山猿の功も積りて年本進、
万葉やいろをの宿よりの春　下総小山　梅鳥
蛍とぶ夕べ　無門の梅、
杉ふる氣八豊前の国、花嶋　生水
越えの道なくこそ　大江日、
えうも門杉八三保今朝の不二、　桃里
緑ちきの沼のかう免蛍の雪、
永々と年も暮れて初り新　春艸
以年や傳ふる諸のうたさわ、

神の香ふる小沼や京の夏　梅秀
なの香も傳ふ人や年二秋、
はまぐり八兵衛の浦之海
布馬の名ちと変化おひ出て　三河吉城下　柳絮
又ひ出の引ちとして出ぶりの
諸人行先の年の美ち年の仮、
えうや序八地をの角ちき　寸路
一とせもふり訪うる除秋の陸、
えうや鶯の鳴ふる除の陸、　鳳羽
仲人の多ふる人こうう
年去

梅三

馬逸

琴尾

梨童

千來

古甫 秀門雄

武州 信之

水里

月雲の奥庭に咲や初梅

行年拾せしなの雪や宮の梅

研り井し箱ひきたしの玉

行梅で急くし庵の言

急ぐる母を崇ひ行れハ

遠国やまるき数のまれ事

ひ年や服続て傳子孫て

世の中は笑ひ初や稚舞等

毎年の庭見も嬉し梅一枝

月雲の奥庭に咲や初梅

行年拾せしなの雪や宮の梅

研り井し箱ひきたしの玉

行梅で急くし庵の言

急ぐる母を崇ひ行れハ

遠国やまるき数のまれ事

ひ年や服続て傳子孫て

世の中は笑ひ初や稚舞等

毎年の庭見も嬉し梅一枝

樹もいとも多繁ひ

器もるる言葉に師を心

梅も今朝咲ひ初りの玉

暖なる高台て春うん深秋の梅

稚舞等もいとも多彩や初りの書

孫悟の文て烟せよ深秋の酒

○

御車の年もゆるりや初り向

いさ海一の世話や年の尾嵐の尾

蓬萊の仲よ梅さかりかな　下青々　梅谷

うらうめや月とれし人八年の春　〃　頃左

門松や大なたよ夫婦中　〃

ちらちらや傾く月の縞うけ　〃

○

頃し都も恵こ八ゆしを初り新　三河田原　冰虫

うれさそそもく鶯も恵こ八ゆしを春の園　〃　歌時雨

山茶よ今ろく矣色やうちぬ　〃

掛乞や内よ幸こ八香りるう　〃

匂き馬の声勇ゆ所代の出　菊賀

年波の淑越歩　元日和　〃

元旦

こちぬ人こちよ人こちよ人の出　下総　山奥

世の中の岩ヒぬ春や仰柳　鳥林

ちり美城相ちるる所の春　長民

古郭に行ちを拾ちの出　蒼谷

えりや何ふ人なさ人ん　梅芳

歴ちて見れを流ゆ春　百川

四暮

杉竹や磯のしめ秀の不老門　祇拙

隅田川（佐渡より出て枕を
拾ひし　ところにて）

撥し流をしらし年の川　、

小野ぬくんをなつて境解　也来

ちらちらと改の宮やそをおと　、

童の教もこゝのもゝめる　祇聚

風うて鳥の春秋色元の唐ぶ　、

上下も解も角角ふ新蕎ふ　徳夏

解たうりもたるもやも年の門　、

えうや　柳のうの角ひも紙おとく　祇忠

年の夜や　清の　　、

春奥

一日の時はよ夢のつりを　八巾

やよ　姪　も一二番初の友　紀裙

乳ばかり延て糸の柳る　禾虫

春の保　角こ　　鶏墨

梅の花や頃の文よし　頃藻　青紅

梅の香や　傳子よりも硯水　前川信之　晋谷

ぬるんでる小豆の田螺哉　上青紙　梁星

清香や心の里へ梅の香　呂仙

まゝ仰や解て袋の小りみ、　宗二

ほの暗き梅の香の雲、　下青本　梅谷

梅咲や宮ハ早照る鏡　月

京鉾下踊の手ぶり　琴雨

面影世ぶりうつして赤の芝ぶ　半醉

凡なるうつくしき梅の花行く

梅の香や前ぶれる乙鳥

梅の香の体ぶりや　白好

梅の香の帰と知るもの見　梅鳥

うぐひす梅の帰と知るもの見　生水

梅の花　不門

梅の花　白扇

梅の花　東園

梅の花　天牛

梅の花　李叟

梅の花　二系

梅の花　白好

梅の花　梅鳥

梅の花　生水

梅の花　不門

梅の花　白扇

梅の花　東園

梅の花　天牛

梅の花　李叟

四暮　下総助次連

為殿の屏を拭くやうに拭ふ　福田　菊人

長く樓上年の夜孤、

折る指のうるひれみ寄の雪、　雪竹

竜の髭や硯の墨乃春、　桃仙

解つるや移し屏風富の朝、

宗彭　みち梅咲や年の暮、　棠雪

古年代慶長　てゐの墨　馬糞り　梅東

その頃あり深さて後取の後、

鯉えさ巣突せ知らぬ、　松尼改　芝九

年寄ぬ茶買ぬ書の市、

門表の家り居ぬ門帰　助次　梅滝

市人よ長生和宮の衣配、

○

無一物の僧も行く年の市　伊能　此柱

十夢や鬼も仏迄出く春　月作　葵道

巻筆の味ふ〻の魂、　素考

雲行の猫も裁ぬ衣配、

納涼の糸掛を高く乃賞　蒐北　朴子

世の繕をすぐ乗して涼庵、　梅明

初夏や月高く日くれて宝寺　伊地山　雪光

みそぎ川に抛も鯉を国見うち、

六十一の春　坂村　彩虹

ゆうべして三度の童やう朝の春、

絶えず生る命の六十の年の雪、

先ゆきの裏の一月やうれり出、　周南

花の夏の夏中おとくしゆの園

揮毫〳〵年乃要や初りの出　安久山　一石

行ゆの公鼎や弥生抜尾花、

年の拾ふこらや玉の裏、　千枝

至乙住ながし　燈佛、

門くゝ琴の音も高う春、　兎眠

牛角と竹句て見る師走、

高雲の出ぬ仏をそなへ　方田　卧石

○

雪踏んで湯杖寺の茶ちん　仁良　彩吾

門松の色ぞ忘れぬ初日の出　蓑拾

一枝は春の気新やまの梅

乱れかけぬ春新し初鳥　飯島松風

春来月も春りや年の雪

幾千代を思ひ尾やむの春　中村梅堂

節事多や鶴の車の跡之丁

の候の自凝ゆや代の春　岩部宗雅

今年秋を知年や年の金八三

地八禅禍とかさるや春の初の巳　崇三

雪の見かり変詩や大世日

○

志光徳ゆ萩の義ゆ仰ぬ　三金　孤杵

大ゆの雪ゆ色ゆや世の春　浅湖改一　舟

梢ゆ梅ゆ春ゆ春ゆ

初鶯ゆ花ゆ春ゆ　亀渕

几天窓拭ゆ志の師走ゆ

初日の出東英一三笠山　花友

買ものや小ゆ年の市

二條の京をより續く初霞　湖南
今宵乃ちゝぬや年の投扇

○歳旦

年の頭ゝ日の出まゝよりしらし　助沢
市屋を掃て梅の匂ひ　梅丸
情ふるゝみの舟の年越ゝ　梅人
宮の新年ゝを目覚　宗雅

春興

梅丸



ちゝぬひや年九門

ゝ

春興

宮も梅へ梅へ年の律義さ　梨童
梅ゝ多の解て陽ゝ当てまて　千來
香ゝ免ゝ多ゝ多ゝ心弱の梅の蕊　秀ゝ
巻ゝ羽ゝ多ゝ雲ゝ多ゝ変ゝ多ゝ　不染

題言

ふるいや星のこゝろも汐籠ゝ　蛇九

代々かへて来へ下るる係所の厂　、

茅子の名ひゝらぬや福岳艸　錦江

三味せんの音ゝゝハたや年忘　、

古ゝ嫁をひゝて

三丈時よ是事ゝ枯ゝ三ッの羽　祇鶴

いさ死名門や師ゝ乃梓の香　、

静子や瓦日の風も玄の春　祇川

借積漆を分一年の雪　、

今朝昨の枝岩角ゝ人

姿しの完ゝ多ゝ

枕ひの多ゝよこゝ

ゝ神やゝ人のゝゝし和金糸　角子

恒根ゝ泳のゝゝ恒鑑　、

ゝゝと明の境や冨士の形　蘋俟

二年八ゝ名ゝ　ゝ　、

今朔ゝ三ゝ　ゝ　、

春へ年ゝ係ゝ角ゝ梅　素竹

牛延の蹄をとめや年初　堤雨

おしなべて戸さゝぬ代やの貴

特しさの行初やむの長　啄梓

吉日の珍ひあるやの　古屋

夕ゆきとゞまる新らしき初春　柳我

篠橋や杵さゝぬの足松る

果蓏

紙帽しるしあるし年の福寿　八巾

風雅まぶれ不れし帰をんる　紀裙

梅うまや立ちさゝぬ春の光　柳市

日ぬきさの走行新柳る　蜆九

七種や昨日を去て後芽　徒鶴

雪の色なを延るや春の色　夫卜

毒虫てちしの消りん梅の意　徒川

日しに新しき沙の春　扇釈　梔友

春永くいと色高れ巾　秋何

口筆と落ちるや森の月　上青木　紫芳

立ちて弓毎の名ぞ長き　素竹

○

常や一度しくもぬまの東　綾吳

己り弟ふのくまよ松を持る　石漱

誰見てもたかハゆる滝自　子隱

眼尾

市盤」とけるや行年の暮　風巢

まぶ紙をもも雑こうる　鎚て

る毋蔵しゆるくや年の市　雪骨

面のり伝撰ハ年くぬ師をぶ　山崎

を市冠を所るよ年の祝新　武西ヶ原山　奥

如　扶

雛図こうよ結なれハ

日月の墨うハえ行初唐　三河田原　雪仏

一汐能ゆくくと初りぶ　夫ト

行年や金の位をる垣　者

能ふ下女のうをめ名初　作紙

掛をたりをれるを力雄

嘘いふは嘆きなげくなり　湖月

なき人ぬるふる年のむかし椿　、

童の手ふる碎けるふる相の春　其三千

碎けるふる黒ぬん年の雪　、

えりや皆紅の引ぬけ花　丑涼

打寄やかしこ嘘ふ方墨村　、

油絵や方安くてもふるふる　丑嶺

部屋やかるに年をたくみ　、

ふるふるいと肖ぬ不二や玉の春　雪

裏ふや春り行年のふる衰　、

うらひ影の神名寄ものもの　祇聽

名ふ魚にふ風を合や年ぬ毒　、

、

依後えう行の秋しや年一夜　呈瑞

西伯へりむ絵ふる時を下　兎六

ふ相京し鶴ふ代や河り新　三河巴城下　巴龍

いそふいい年の行風や京　、

ふ答むえ作ふふ屠蘇　、　也扑

年の暮やはるかなる海のはてなる、杜右
南の一の筆始とやせの年、
ひいらげと永いとしの年一夜、
除かなる夏かげの花の色、兎凡
山もてはるる年を思ふ、
初鶯やたのしく松をたて、燈雨
月をうの奥の年うや年 玄、
烏羽玉の秋のうふ雲くれぬ、無一
世の年をうるれ雲やうを玄、

小雪や雪ふ降ふき年の波、魯人
いうう年れを金貸人のうし玄、無卿
古年の雪うを踏くを除やれ春 和月
大ふく乃雪もうれて年の米、
雨風かちうを雪て枯し花の春 蛙声
年降や古さんを抜小舟、
夜をこめて除や松の秘を玄、竹英
ふ忘れいうや行年月の搗、
一天うん雪もの行春や初うを 東塘

青〻と高く琴柱や小松丹
葉垣の[illegible]葉始
[illegible]
[illegible]
泊瀬も世界[illegible]の雪
武蔵野の[illegible]の春
春を[illegible]
双六乃天城ふりて雪の[illegible]
仮[illegible]井戸[illegible]年の雪

、琳舎
、泉里
、秀峨
、梅二
、

校[illegible]
年の[illegible]屠蘇の酒[illegible]
亀乃背に水[illegible]
新色[illegible]大北日
[illegible]
物[illegible]巨燈[illegible]年の雪
[illegible]
[illegible]年[illegible]

、梅呂
、泰里
、玉波
、猗天
、

春無

沖ゑ入るゝもかぶんタ　李令
雪乃ゆ雲霧出れるれば　流光
霧ゝ乃ゆ雪乃ゆ雪乃ゆ雪　和月
入うけの小ゝ寒し　鶴月　魯洲
雪ゆ地も絶し鶏ゝ　五凉
青柳の　人鳥　竹英
梅咲くや滝乃すゝ　五嶺
立ゝ尺梅ゝ雪降ぐ　蛙壺
ゝ　琳舎

三月小ゝ連ゝ帯　呉柳
梅ゝ咲や鶯の笛と香色し　梅呂
山姫のゝ　鄭坡

歳尾

飯喰ひ　梅年
行ゝ　鳥林
雪ゝ　蒼谷
月ゝ　梅芳
掛ゝ　長民

ゆきしまさるを師走のみ歟　百川

雪元と塗ることを一年云　文毋

元旦の角力あれあつてこの雪　牛飲

○

三味線を枕よりのきたるか　我泉

中の戸や狂言一首乃追儛　徳布

七夕を物もの神ふる衣配　茂楓

月咲乃月板よ紙ものやの板　眉雲

無乞に月も冴ちあり大此は　雲二

無乞よ物ものと病ものかもいかなる　野叟

春雨の市の門年礼者乃　馬泉

春雨

梅よ梅て氣呼小栗宮乃　宗瑞

鳴んて折る雪のいとや梅の雲　富屋

初ゝの搗へてれ乃梅乃雲　甲陽　奥髮

歳末

出しても為ふ〻清ものの年の公業陰　素凡

首ふきハ蕊ふ紙ものを衣配　蓼太

ふしてあも寒らんそ〜ぬくき　阿人

竹の春やや岡元の供の琵琶袋　雪戈

大尾

霸王樹の枝又枝ま折年九　楚茗

市の日や年の程木の玄川戸　栢翁

黄ゑ苔の初〜くやゆ〜と志艸　野逸

年九尾やり〜山多の油うと　柳門

三十六禽の辭

名の石とをとへきハ名の名よりのぶ禽乃
きんとをとへきハ名の禽よりあらハれ金ハことも
ちもをもつて金の体と非ずよりて秘せず
是紙仏をよりて黄金のちりとへと伝く毒歌
提て持て官寧よりおとれとも貴ハ粤国よ
辞して夫子よりもちらもあるハ上聖の上人よりも
下泥たるもの孤ぬるまて離れきハ君
ちうん松の位とをのわうをあるれ男よ

竹の坂の冥祇ゆゑ　考うる者と
なるも五貫の志　金にきんの天宮の後孤は
なほひく羅手丸もけりうとて　高の兄のきん〳〵
[illegible]　[illegible]の[illegible]　代れハ糧ハもれて
羅丸をもち兎　孤ハ嘉の馬糞より引久
矯亂より代りきれハ化物ゆゑ　[illegible]
[illegible]　[illegible]乃探[illegible]より化物三十六會　[illegible]
出して[illegible]を代る事出ずを年乃拾ひ
[illegible]

賦何金

[illegible]　角子
[illegible]　何勤
[illegible]の[illegible]の柳[illegible]　泉里
[illegible]　何京
南を[illegible]梅より[illegible]秋の[illegible]　秀峩
[illegible]　何巾
[illegible]汝も奇特乃[illegible]　蘋候
出て[illegible]　玉波

賦何金

[illegible] 古拙

琴高仙人

[illegible] 作紙

金龍山

[illegible] 馬逸

公達

[illegible] 滿成

[illegible]

[illegible] 柳賀

金鳥

[illegible] 鳳羽

[illegible]

[illegible] 蒼谷

金綜

[illegible] 菊賀

[illegible]

金

[illegible] 也來

弱竹のたやすくこんかぶの上　祇長

砂金

月夜にて空の秋ふかき園の梅　祇聚

ほろ巾

まろ寝して枕ハ中ほの女連　祇忠

兜巾

雪のふりて椿の　兜巾ぶ　祇起

賦三字中略

松人

奥拙

この矣

帰方

蜘洞

五町

物ヶ事ヒヒの長ひ百ヒ長ギ侯者

ちゝみて枕ふかしの色ふし

清流ヒ風ヨ柳の氣物ヶ那

聖代の庭よきうんやうくの梅

立ちてもなほ帆ハ行しヒの夜

ふてに信し庭の夏の夜の夢ぶ

賦　禽仙

ふ不ヒ百の嶽　ヒヒやまの雪

金仙

湖月

糸竹やかなる音の後徳紙　寸路
霞れと俤風の惜さよもの夜　梅三

紙公仙

寄解や時の流るゝのゆるみち　哥時雨

、金仙

すゝ和ゆ弼の光りやうらめ　錦江

、今仙

古るかの志ゆ志ゆ志ゆ志の編　其三子

賦五字中略

出ぬ人の名もうきかるゝ。
雪の声寒蓮　柳の見じ　鳥村
梅秀

紙五字中略

ぽるゝの世八只柳くゝ　梅茅
一ヲ打の吉野の山や起信寺　長民
雪や寒ゆ経も奇妙院　百川
きやるゝの糸ゆ出ぬ柳ゆ　春竹

春興　同文

とまてきく花にかけなたくき　雪岨

無題

梅咲や封間を解く反故窓　無郷

千枝ハ花さへ減りて垂の花　免丸

梅さくやまた月の繊うす　杜右

風さそふ紙雛ふる柳かな　也朴

風もなし山のくし誰ぞ柳かな　巴龍

虚といふも神さびし　魯人

化物列傳ノ引

俳諧師といへるもの、扇ニ名を高くとかく化とだけて優倫ハ其紙術とよび字式をよれを術とよび道人もし之徳五常なれハ化物もし七宝八絶あるとて此法を以てそのたけ紙戯舞られハ十歳十百の変を一度千句の化し之寸の吉備するさそが出ても此を足しられ事物しされど他山の石ハ誹諧を非ハ詩経の聲　古の二字を見たき化もの

行安を繕ひて寄ふ新らさ俳士よ
その家けをとらんと第一園の今より後て化也
列侯を作るものたのもしし
十市姫
宗雅
宗貞の濡石や門柳
宗貞や人もはてなき此
梅東
笑泉
大号よ笑ふ此あるものの面
雲竹



厚前
吹頭と前久しくや楊枝
雲者
信夫房湯
桃仙
ものとして霞とちるや温泉の煙
琴弾坂
梅明
物うるや行ひ(カスム)ひ坂よ琴の音
一石
雪舟
雪舟も立て彼岸や蛙(アガ)の枝

月の樹ハ明るき海ゝ柳ゝ　鬼眠

松虫

知音を志ゝ鳴の為ゝ　千枝

○

題音行

春雨や細長ゆけハ謎合　梅丸

千鳥なの山も笑ひけり　宗雅

驚ゝ清ハ小ゝ高ゝ　一舫

山ゝ鳴ゝに鶯制の札　素人

ゝ雪の月ゝ　雪光

新の下に深ゝ　棠雨

紙くずけ　扑子

色伊ゝ　桃仙

色伊の紙敷ゝ　芝丸

伊ゝ　花友

歳屋の雲ゝ　梅東

棠花の雲のさむゝ　梅明

ゝ紙ゝ原氏狩衣のゝ　棠花

[illegible]　子
[illegible]　湖南
[illegible]　亀渕
[illegible]　雪
[illegible]　光
[illegible]　人
[illegible]　東
[illegible]　仙
[illegible]　芝

[illegible]　孤杵
[illegible]　鯛

○　蓑貝

[illegible]　此柱
[illegible]　[illegible]道
[illegible]　芝九

榆正成

流れ来る夕日の影やハ立春　棠雪

中秋寒月

雁とハ弗も寒なんとう　棠花

正紀

まゝ柳を先新しく九月雨　雷谷

相馬松門

俳の云ハ多葉乃新角裡時　刈毛　露瀧

秋江の石

○

梅九

柔の侍

柔人

屋へ石の陰より蛙　蛙月

毎ハ山中に一人の姫のすれ〳〵の其

いと寂てもぬ山姫とこの支〳〵ちぐ山徳の淡泉なり

かくもそ声を里をてなん寄たて

うけいる徒の友ともなりぬと一体和尚を

差て挑〳〵かゝる毎よ如何なれハ相なる多

くを引けて　さて如何　さて松の間より
さしてよ間もきらく糸事橋出るハ誠
太近よハよく似ら人の姿のはてゆれるに
福くかうれハ水流ふて名はけあるよ
云ト有くなる人ハ後くも知るしりを下
さ毎の人ハ福抵もかーつきらる鎌ゆら
よ通ひてをかゆるにかりかさひもか
ぐらもなれハ湯山猪之山の山男とも
昭ふのれよ松さもさ知らハ人もかも

ろれと山ふ好き人よハそと訳ゆ
ゆらさらを引れハ原宮の中に居ーなるを知欲
なるかるふ名をもと山よも清ると
秋の陣を形も折ふ乃早りよ湖を橋と
ふ名を　をみて色毎をふらもしたる
の帝のれゆん毎ゆもはて変へのふて叡
感の餘りよるしる春分集よ載吾とも
後けるらぬ勅沼よ拐後ハ清そし姫く
かの山泉の記事出加へ水ふ毎ん法まて

さるべきもの、ことにふれてなどもあるべきの程にて
ものみくるしくよろづの事の思ひ知られぬべ
き所の時々をとかく佐ケよりとかくにて
かりそめの事の弱のふくの作さるべきハ兵衛佐の口
まゐるべきかの兵衛佐の師のまゐりてかの撥乃
國とそ思ふ人達にて話るの兵衛佐
まゐる方れ方にして南伊とそ
かつぬ国の分とかの作ハ拙思ハ
あるべき兵のと宗叔蓮の歌乃

そ武蔵ハ人さるべきうる向人さるべきハ
ものと知ハこの糊ものとなるべ
住所ものしも遠庵使のて行の
眼ものの行方にて兵しの国よりはらん
神まと知ハ遠ものハ所をとを
ものて話郎より後日賈誼の人よ
向ものの作ものしも編所ものの
外より知ものの人をて眼ものの久伊てを
ものとすると怪なるヒヤウ少ものと

形を尽しひのくさくて鵩鳥の賦よみし増
まで作りてしたゝかなる名をなんおもひけれく
げるや、まさなく、かしこの八箇みな経らくて
氣ハ使もちもいちまく日本よりん海より
浦浦の子の者しそ消へてかくといへとも哀
古書あれし新撰をあれをそ淀も亡きさ
胤のゐのとし耳勝らしく柱の間もいはね
を役のみてかくの花のゐとしもりしのさくさ
まで思ひ淀け淀く嘆きけるかくてそそてよ

都の方と覚し おりける人に徒の帝の生れ
給ふありしもさらぶ王を賦きて欲なんと
せしに例の間して母皇后仲姫の天下に都
かしまりそれのまかり給ふ春宮児の泣く皇仙と
申し兼想よりふ夜のくて給ひ皇子其猶の
君しもやえらくなんおもひけるの外なりしく
逆鱗さしたまを発らハ結ひ気もなけぬ
盈し勅免叶ひたまさに寛皇仙の名を忘
れども唐の例まで竹内の子のまゐし給せ

[illegible]ものあり光の名称[illegible]人れの
名のうてさはよの人情を除人々八都の事
事角人もけ[illegible]を三千の人は思ひ[illegible]小町う
牙の果[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]
地面のうりうまてハ[illegible]馬飢と疑ハれ流離
ハ成の[illegible]名称ハ[illegible]
[illegible]
霜[illegible]
和[illegible]

同の明けゆけと老の身の病ぬ間まれ[illegible]れ
員八一下日臨て忘れて[illegible]ハ文[illegible]
明く[illegible]の張文成を思ひ[illegible]ハ
[illegible]
明俊師のさりやうきとよ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なきゝ人の母嘆きて、毒ものを出されたるに、
とのゝなさけ世となれば、かの阿倉の主殿の文
字ゝと思ひつゝ、今はいりて、主殿の身を埋
みて、ものひきうはきりれとは、其の安陽の
名殘の少しもれば、かゝに死せる主殿にて
名をさへ（男色）さへ虎と化して、
なきゝ人のゝ歌と、年のおもはゝ、
五月一日の、それは、遠き昔は、
六月五日の日は、黄泉に向かく

感の修に、第一の隆は、
吟し出せり、新撰秀逸、
集り記は、おこり風に世も仏光
りう行れと、喉渇の初後、その身を
義屋の和を、丈は、雀入
名を、ゝ、面ぶ、ゝ、ゝ、
のつぎゝ、少出れ、拾遺より、辻
修に例の、修時、ゝ、ゝ、
れし、ゝ、ゝの、譜名を、ゝ、

いくらも十石より八石ぐらゐかくてそれ
身をうけられハ皆よろこぶ大黒経の功
力なるべく母を慰ハさりながら春行ヒに
らうそくの火の中凡も金之花会の京の寝
なとやたびつしり裏成男子の大将さ
猶の代役訓抗の世倍ある夏至のより
礫まてもあられ十石多他なら十号帰
なり元らへ何て揃を見え死そかへ月も
まて結縁の花をさ方伊くと南

方勝云寄てえ杏りけり

○

專女御前

巫女となし焼かをゆらぬ狐　一舫

非農

そうそうな一味まじめなく　亀渕

鴨松

せ宗さと臨るあもしのまき松　湖南

一ハ汁の螽槽

[illegible]　彩虹

黄石公

石に屋[illegible]　松風

[illegible]

正月や　[illegible]　梅堂

秋仙

[illegible]　梅人

[illegible]　鳥林

小[illegible]　梅笑

[illegible]　梅秀

[illegible]　錦江

[illegible]　春草

山花の小倉を見よとなれ　松尾
ひとつ流れし公事の獨り　也来
一面の葉たをりの流れ風　祇忠
ふるさと恋も鄙のつり歌　信之
木の下に落葉掃くの主人　素竹
流れ行く残る月の出る流　長民
江の水の音のこの白きひとて　蘇候
ちるもにけるを来屑とや　角子

方丈、未建ちさても別法界
祇隻
色とりの扇の拍子音　蜘洞
まるの方のちるもを答せて　湖月
待つ恨つ来客をふきの　梅雅
徇の遊くの砧猶法と間のんちり　祇聚
法華寺坊て言ひ一七　梅三
仏皆乃仏法僧も京子者　鳳羽
柳の色の雲乃入梅時　寸恰

[illegible]

拾遺集の後の[illegible]

題知らず　神代より

[illegible]てつぬ恋の別

し吉の[illegible]を[illegible]

と角人に[illegible]

須の[illegible]月[illegible]

新宅[illegible]し萩[illegible]

梅鳥
生水
泰里
馬逸
吾來
玉波
百川
其三千

[illegible]こめし世の[illegible]係[illegible]の奥

[illegible]

夫婦[illegible]

菱[illegible]

山[illegible]

[illegible]

紙拓
哥時雨
水里
梅谷
蒼谷
作紙

安永十年丑

蒼谷老夫書

彫工啄梓

月並会

二月 梅 鶯

三月 山吹 ひこ 雨

四月 竹秀 卯月 筆

五月 あしあや 百人

壬月 菖蒲 五月雨

六月 水無月 日傘

七月 星合 鈴虫 角力

八月 月 萩 さめ

九月 紅葉 栗 菜

十月 菊花 三九 炭

十一月 ちのこ 雪 氷

十二月 ちまき 雨 梅 年の暮

毎月廿日限 北向

百川

馬遠

梅秀